

令和 6 年 5 月 29 日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究

研究期間：2021～2023

課題番号：21K13474

研究課題名（和文）ヤングケアラーの存在率調査とヤングケアラー経験のポジティブな影響の調査

研究課題名（英文）Research on the prevalence of young carers and the positive effect of young carer experiences

研究代表者

金原 明子（Kanehara, Akiko）

東京大学・医学部附属病院・助教

研究者番号：30771745

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：英国ノッティンガム大学のStephen Joseph博士との国際共同研究により、国際比較可能なヤングケアラー尺度を作成し、国内でヤングケアラー存在率調査を行った。5000人の中高生への調査で、ヤングケアラーの存在率が7.4%と推定された。これは標準化されていない尺度で調べた日本の調査結果と概ね同じ割合であった。ヤングケアラーは、そうでない人に比べて不安や抑うつが強いことと、向社会的性が高いこともわかった。得られた結果に基づき、ヤングケアラー情報のページを開設し、学校・家族向け冊子と、当事者向け冊子を作成・掲載した。学校関係者へのサポートに関する研修会を6回実施し全国から学校関係者が参加した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

英国などの先進的な取り組みを参考に、日本でも若年介護者支援を推進するためには、国際的に比較可能な尺度を用いた疫学調査を行う必要があり、本研究によって、それを果たすことができた。いくつかの先行文献では、若年介護者における潜在的なポジティブなアウトカムについて議論されており、本研究でも、ヤングケアラーが向社会的行動などのポジティブなアウトカムと関連していることが示された。これらの結果に基づき、ヤングケアラーの定義やサポートについて、冊子・インターネット・研修会などで広く、学校関係者・保護者・本人に届けることができた。

研究成果の概要（英文）：In international collaborative research with Dr. Stephen Joseph of the University of Nottingham in the UK, we created an internationally comparable young carer scale and conducted a survey of the presence of young carers in Japan. The prevalence of young carers among 5000 adolescents was estimated to be 7.4%, comparable to that reported in Western countries and in recent surveys in Japan using nonstandardized methods. YCs exhibited significantly higher scores for prosocial behavior and emotional symptoms than non- young carers. Based on the results, we opened a young carer information page and created and posted booklets for schools and families, as well as for those involved. We held six training sessions on support for school personnel across the country.

研究分野：精神医学・精神保健学

キーワード：ヤングケアラー

1. 研究開始当初の背景

ヤングケアラーの定義は、国際的には「慢性的な病気や障害、精神的な問題などを抱える家族の世話をしている18歳未満の子どもや若者」とされていますが、日本では、必ずしも病気や障害をもつ家族の世話に限定せず、「家族にケアを要する人がいるために、本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている18歳未満の子どもや若者」としています。

英国では、ヤングケアラーの支援に関する法律が制定されており、先進諸国ではヤングケアラーに関する調査や研究が行われ、その存在率は約5~8%とされています。日本では、日本ケアラー連盟の活動や、本研究の共同研究者でもある澁谷智子氏の著書などによって、ヤングケアラーという概念の認識が広まってきました。さらに、厚生労働省と文部科学省は、支援体制の構築について共同で審議しており、政府は法整備を含めて検討を進めています。今後、日本でヤングケアラーの支援を行うためには、実態調査が欠かせません。これまでに国や自治体が行った調査では日本におけるヤングケアラーの存在率は約4~6%と推定されています。

2. 研究の目的

今後、英国や他の国々での高度な取り組みから学び、日本のヤングケアラー支援を促進するために、国際比較が可能な尺度を用いて、実態調査を実施する必要があります。本研究は、BBCとノッティンガム大学が共同で実施したヤングケアラー調査で使用された尺度の日本語版を作成(日本語に翻訳し、信頼性と妥当性を検証)することを目的としました。

3. 研究の方法

まず、ヤングケアラー尺度日本語版を作成しました。これは、BBCとノッティンガム大学による調査で使用された尺度を、通常の尺度翻訳の手続きを経て日本語に翻訳したのち、信頼性と妥当性を確認したものです。尺度の項目は以下の通りで、選択式で回答を求めます。国際的な定義に則って、①と②を満たす場合、ヤングケアラーと判断します。

<尺度の項目>

- ①同居家族に病気や障害を抱えている人がいるか
- ②いる場合、その人の手助けをしているか
- ③その人は家族の中の誰か
- ④その手助けが必要である理由
- ⑤同居家族に病気や障害を抱えている人がいるかいないかに関わらず、過去1か月間の手助けの内容・頻度

さらに、この尺度の一部(項目①、②)を用いて大規模なヤングケアラー存在率調査を行いました。首都圏の一つの都道府県における私立全日制中学校・高等学校の団体の協力により、加盟校に通う5,000人の中高校生に対して調査を実施しました。

4. 研究成果

本調査の結果、ヤングケアラーの存在率が7.4%と推定されました。これは標準化されていない尺度で調べた日本の調査結果と概ね同じ割合です。この割合は、同じ基準で調べた英国の結果(22%; ケアを多く行っている人に絞ると7%)よりも低い数字でしたが、他のヨーロッパ各国で行われた結果とは類似していました。日本が英国に比べて、ヤングケアラーの存在率が低い理由は明らかではありませんが、ヤングケアラーの概念が英国ほどは社会で普及しておらず、ヤングケアラーが「ケアをしている」という自覚をもっていない可能性があります。この調査では、ヤングケアラーであるかどうかの質問項目のほかに、不安や抑うつ、向社会性(進んで人を助ける傾向)などについても回答してもらいました。その結果、ヤングケアラーは、そうでない人に比べて不安や抑うつ(気分の落ち込みなど)が強いこともわかりました。一方で、ヤングケアラーは、そうでない人に比べて、向社会性(進んで人を助ける傾向)が高いこともわかりましたが、横断調査であるため、因果関係の解釈には慎重である必要があります。

ヤングケアラーの人は、そうでない人に比べて不安や抑うつが強いことから、ヤングケアラーに対する教育、福祉、保健領域における支援の必要性が示されました。今後は、ヤングケアラー尺度日本語版の全項目を活用し、日本のヤングケアラーの実情を詳しく調べ、家族の中の誰に、どのような理由で、どのような種類のケアをしている場合に、心身の負担が強く、

支援がより必要なのかを明らかにしていきたいと考えています

調査研究で得られた結果に基づき、普及と実装研究 (dissemination and implementation [D&I] 研究) として、ヤングケアラー情報のページを開設し、学校関係者・家族向け冊子と、当事者向け冊子を作成・掲載しました。学校関係者・家族向け冊子では、見えにくいヤングケアラー状況、ヤングケアラーの割合、ヤングケアラーの声などを紹介し、教員としてできること、ヤングケアラーの助けになることを掲載しました。当事者向け冊子では、ヤングケアラーとはどんな状態のことかについて丁寧に説明し、相談先について紹介しました。

さらに、ヤングケアラーサポートに関する中高生向け講義を実施したり、学校のスクールカウンセラーや養護教員に授業をしてもらえるための研修会を2022年度に3回、2023年度に2回、フォローアップ研修を2023年度に1回実施し、全国から学校関係者が参加しました。他に、2023年度には、研究成果の [D&I] 研究として、得られた知見に基づく、ヤングケアラーを含む思春期若者向けの心理支援を実施しました。

雑誌名：「Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports」(オンライン版：9月21日)
論文タイトル：Young carers in Japan: Reliability and validity testing of the BBC/University of Nottingham young carers survey questionnaire and prevalence estimation in 5,000 adolescents.

著者：Akiko Kanehara, Ryo Morishima, Yusuke Takahashi, Haruna Koike, Kaori Usui, Shun-ichi Sato, Akito Uno, Yutaka Sawai, Yousuke Kumakura, Sho Yagishita, Satoshi Usami, Masaya Morita, Kentaro Morita, Sho Kanata, Naohiro Okada, Syudo Yamasaki, Atsushi Nishida, Shuntaro Ando, Shinsuke Koike, Tomoko Shibuya, Stephen Joseph, Kiyoto Kasai*

DOI 番号：10.1002/PCN5.46

URL：<https://doi.org/10.1002/pcn5.46>

学校関係者・家族向け
「ヤングケアラーについて」

中高生向け
「家族の世話をしている10代の君に」

サポティーン> ヤングケアラーのリーフレット

<https://supporteen.jp/young-carer/> 2024.05.29 アクセス

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Kanehara A, Morishima R, Takahashi Y, Koike H, Usui K, Sato S, Uno A, Sawai Y, Kumakura Y, Yagishita S, Usami S, Morita M, Morita K, Kanata S, Okada N, Yamasaki S, Nishida A, Ando S, Koike S, Shibuya T, Joseph S, Kasai K	4. 巻 1
2. 論文標題 Young carers in Japan: Reliability and validity testing of the BBC/University of Nottingham young carers survey questionnaire and prevalence estimation in 5000 adolescents	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports	6. 最初と最後の頁 e46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pcn5.46	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Morishima R, Kanehara A, Aizawa T, Okada N, Usui K, Noguchi H, Kasai K.	4. 巻 74(3)
2. 論文標題 Long-Term Trends and Sociodemographic Inequalities of Emotional/Behavioral Problems and Poor Help-Seeking in Adolescents During the COVID-19 Pandemic.	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 J Adolesc Health.	6. 最初と最後の頁 537-544
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jadohealth.2023.09.015.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Kanehara A, Morishima R, Takahashi Y, Usui K, Sato S, Uno A, Sawai Y, Kumakura Y, Yagishita S, Morita K, Okada N, Ando S, Koike S, Shibuya T, Joseph S, Kasai K
2. 発表標題 Young carers in Japan: Reliability and validity testing of the BBC/University of Nottingham young carers survey questionnaire and prevalence estimation in 5,000 adolescents
3. 学会等名 8th BESETO International Psychiatry Conference, Beijing, China (online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 笠井清登 責任編集	4. 発行年 2023年
2. 出版社 金剛出版	5. 総ページ数 300
3. 書名 こころの支援と社会モデル	

〔産業財産権〕

〔その他〕

ヤングケアラーリーフレット（学校関係者・家族向け「ヤングケアラーについて」）
https://supportteen.jp/wp/wp-content/uploads/2022/10/%E3%83%A4%E3%83%B3%E3%82%B0%E3%82%B1%E3%82%A2%E3%83%A9%E3%83%BC%E5%AD%A6%E6%A0%A1_1024re.pdf
ヤングケアラーリーフレット（中高生向け「家族の世話をしている10代の君に」）
https://supportteen.jp/wp/wp-content/uploads/2022/10/%E3%83%A4%E3%83%B3%E3%82%B0%E3%82%B1%E3%82%A2%E3%83%A9%E3%83%BC%E6%9C%AC%E4%BA%BA_1024re.pdf
サポティーン 学校の先生方へ
<https://supportteen.jp/teacher/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------